

# 雜 報

## 會 員 動 靜

賜二級俸	侍醫 笈 繁 (十二月十九日)	長崎醫科大學教授 辻 綠 本俸五級俸下賜
賜一等給	陸軍二等軍醫 赤 堀 茂 樹	職務俸金千九百圓下賜
賜二等給	陸軍一等軍醫 岡 田 俊 之 (十二月二十三日)	叙正六位 從六位勳六等 尾 崎 文 七 郎 (十一月二日)
年俸參千百圓下賜	鐵道醫 岡 島 壽	叙從六位 正七位 白 玖 壽 雄
年俸貳千七百圓下賜	鐵道醫 岩 崎 衛 二 (十二月二十五日)	叙從七位 安 田 正 一 郎 (十一月二日)
臺灣總督府醫學專門學校教授	廣 畑 龍 造 (十二月二十五日)	學校衛生技師 進 藤 斧 吉 (十二月十五日)
陸軍高等官六等	陸軍三等軍醫正 野 上 尙 志 (十二月二十八日)	岡山醫科大學教授 田 村 於 兔
依願豫備役被仰付	保健技師 安 田 正 一 郎 (十二月二十五日)	岡山醫科大學教授 入 木 田 九 一 郎
八級俸下賜	陸軍三等軍醫正八位 辻 綠	歐米各國へ出張ヲ命ス (一月十三日)
任長崎醫科大學教授		岡山醫科大學助教授 中 川 小 四 郎
叙高等官四等		本俸七級俸下賜 職務俸金千四百圓下賜 (一月十五日)

- 山谷徳治郎君 は本縣第七區の衆議院議員補缺選舉に出陣し奮戰の結果目出度當選せられたり
- 中川小四郎君 文部省より在外研究を命ぜられ大正十二年十月出發歐米各國に留學中の同君は本月六日無事歸朝せられたり
- 小堀文哉君 豫て獨、瑞兩國に留學し居られし同君は今般無事歸朝せられ岡山醫科大學柿沼内科に於て研究に従事せらる
- 渡邊九郎君 は今般愛媛縣宇摩郡別子山村住友病院篠津診療所に勤務せられたり
- 渭東 薫君 は今般大阪赤十字社支部病院を辭し堺市甲斐町伽橋病院に勤務せられたり
- 市村 治君 は今般大阪市原内科院を辭し兵庫縣明石郡垂水村西垂水和田醫院に勤務せられたり
- 木村義郎君 は今般鳥取市外吉方に轉居せられたり
- 高橋守三郎君 は今般濱松市千歳町に移轉診療に従事せられたり
- 池田正夫君 は今般本縣上房郡高梁町に於て開業せられたり
- 武田俊一郎君 一昨秋來歸郷中の同君は今般再び京都帝國大學醫學部小兒科教室に於て研究に従事せられたり
- 加藤三郎君 は昨年秋京都市上京區小山下總町に移轉せられたり
- 山本義雄君 は先般東京府下大井町鮫洲に轉居せられたり
- 古谷滋夫君 は今般東京市外淀橋町柏木九九八に轉居せられたり

松澤芳五郎君逝く 君は大正元年岡山醫學專門學校を卒業し遊學數年近來大阪市に於て開業し居られしが本月二十日病を以て永眠せられたりご洵に痛惜に堪へず謹みて茲に弔意を表す

都龍唯市君逝く 君は明治四十二年岡山醫學專門學校を卒業し郷里に於て開業し居られしが本月二十一日病の爲め遠逝せられたりご洵に哀悼に堪へず謹みて茲に弔意を表す

郷古温君 は大正十年岡山醫學專門學校を卒業し九州大學醫學部小野寺内科に勤務し居られしが先般腸胃扶斯に犯され療養に手を盡されしも其效なく本月二十三日遂に永眠せられたりご洵に痛惜に堪へず謹みて茲に弔意を表す

◎學位授與決定 北光三君は豫て論文を九州帝國大學醫學部に提出し學位を請求し居られしが去月二十一日開會の同教授會に於て醫學博士の學位を授與すべく決定せり其主論文は左の如し

内分泌腺製劑ノ瓦斯代謝ニ及ボス影響位ニ其相互關係ニ就テ

◎岡山醫學會通常會 本年一月開會の豫定なりし岡山醫學會通常會は講演者の都合により流會せり

◎大阪通信 大阪築港病院

諏訪先生は數年來大阪の中心“せんば”で内科専門で開業されて流行し舊門下生から敬慕されてゐるが今港區築港で病院を建設せし同窓伊藤幸憲博士(外科専門)と共同經營されることとなつた

伊藤君は久しく海外に在つて研學してゐた温厚篤實の紳士である、水魚の情誼で努力されるから病院の發展は期して待つべきものがあると思ふ

ところが港區に新舊同窓生で開業醫者が十六人ゐる、それらの人達は専門科を同じうする者も異にする者も共に起つて熱心後援せうと奮起した、美しい師弟の情誼ではないか

大阪には可なり多數の同窓生がある、港區だけでも十六人だ、今後ますます喧えやう、中國筋の小都會の醫專出が築港附近だけでもこれだけの人数だから豪勢ではあるまいか他區からの出席希望者が澤山あつたが地理的關係上今回は港區だけで會合することにした

關西で名高い今宮宵戎の一月九日夕八時半から築港市立運動場前の旗亭“金水”で病院披露宴が催されて、十六人招待を受けた

多忙で煩雜な業務をこる開業醫が文字通り萬障繰合せて全部出席したのだから大阪としては珍らしい現象だ先生の人氣もこれで分らう一座實に和氣霽々だ

先生と伊藤君とから鄭重な挨拶があつた、病院は米國式に入院患者の主治醫はやはり従來のままで自由に往診して欲しい、尙ほ手術などは伊藤君に手傳はせやうとの抱負も述べられた、谷内、山崎兩君答禮し且將來此の會合を記念して永續せしめやう、又病院の主催で臨牀集談會を毎月開催して港區各醫家に入會して貰つてお互に研究しやうと申合せて一同大賛成する

歡談、漫語、時は久しうして酒、酌、踊、三味、唄等々一同は歡樂のクライマックスに達する、頭腦明晰、學問優秀を自信する境川又次郎河野明一君の輕妙なる洒落や談は頗る興味があるここに孤兒院の眞似は天下の珍藝だらう宴會に缺くことのできぬ名物男ではある、島山君の謠曲清元が出る、柳井ギネ君の活辯不知歸は清聴せしめる、一々數へると際限があるまい一技一藝に秀でた猛者揃ひだから

時計を見て驚いたのは既に朝二時だ歡樂の最中だが散會する、闇の夜をタクシーは走る何處へ

感謝せる一同が先生、伊藤君に祝賀品を贈呈したのは言ふまでもない

ふんな美しい情誼と感謝の念に充ち溢れる愉快な會合は近來稀に見る處を信じて消息欄を藉りて報告することにした、妄言多謝。(岡本記) 參會者下記(括弧内は卒業年代)

諏訪先生、伊藤博士(2) 山本常夫(長崎) 香川博保(42) 新宗一(2) 島山恒三(2) 山崎 榮(2)  
永野武二(3) 谷内興一郎(3) 妹尾義一(3) 河野明一(3) 岡本英一(3) 河島 寛(4) 柳井勝人(4)  
小川澈慶(5) 新藤輝雄(9) 和佐 景(9) 覺前久次郎(10) 出馬晋策(11)